

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4074400286		
法人名	有限会社 オプティマムケア		
事業所名	グループホーム朝茶		
所在地	福岡県糟屋郡粕屋町長者原西二丁目6番50号 (電話)092-939-3435		
自己評価作成日	令和3年8月17日	評価結果確定日	令和3年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホーム朝茶の基本理念「地域との絆を深めて安心安全、人格尊重と思いやりのある介護」を毎日の朝礼時に唱和し、地域住民の方々との交流を深め、地域に根ざしたグループホームとなるように心掛けています。また、職員ミーティング等を利用して人格尊重を強く提唱し、日々ご利用者がその人らしく過ごす事が出来るように介護職員一同が切磋琢磨しながら真摯に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和3年9月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は田畑が残る閑静な住宅地内にあり、鉄骨の2階建ての建物の1階に位置する。24時間訪問診療可能なクリニックと提携しており、看取りを実施している。その人らしく生活できるように、利用者のできる力を引き出し、発揮できるように支援している。コロナ禍のため、家族とのつながりが保てるようにリモート面会やラインを活用している。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの中に基本理念を掲示し、朝の申し送り後、管理者も職員も一緒に理念の唱和をすることで意識付けを行っています。また、新職員にもオリエンテーションを行い理念の共有を図っている。	地域密着型の視点を取り入れた具体的で簡潔な事業所の理念がある。朝の朝礼で理念を職員全員で唱和している。理念は事業所内に掲示している。職員で理念を共有し、日頃の介護で理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で以前のように外出や地域コミュニティの交流の場は減ってしまったが訪問診療や訪問理容室などの他業種の定期的な交流は続いており来所の際ははっきり交流ができています。	コロナ禍のため、面会禁止となり、現在は地域との交流ができない状況になっている。以前は公民館で公文教室を開催したり、近隣の幼稚園やお話ボランティアの訪問があっていた。近所の方よりイチジク等のおすそ分けを頂いたりして交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献として事業所が公民館で行っている地区のご高齢者を対象に脳トレーニング教室を継続しており、地域のご高齢者の暮らしや健康に役立っていると思う。(今現在はコロナ対応のためお休みしている。)	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回役場（包括支援）、区長、民生委員、家族代表などに声をかけ、状況報告や研修報告を行い、地域行事の案内を含め頂いた意見は、ミーティングで職員に伝達している。	コロナ禍のため、運営推進会議は2カ月に1回、書面で開催している。運営推進会議の構成員は、家族の代表や地域包括支援センターの職員、町内会役員、民生委員等である。構成員に議題を送付し、意見をもらい、職員間で共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の包括支援の職員に運営推進会議へ参加いただき連携を図ると共に、認定調査やオムツ利用状況調査では、詳しい状況を報告している。また、町の介護保険事業計画策定協議会へ委員としての参画や役場主催の福祉ネットワーク作りにも参加し、協力連携の強化を図っている。	行政窓口やメールでサービスの報告・連絡・相談をしている。コロナ禍前は、行政が主催する認知症の講義に職員が講師として出向いたり、行政の介護ネットワークに参加していた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を掲げ取り組んでいる。マニュアルを整備し、例外の3要件を満たす場合も管理者がチェックシートで検討するとともに全員がミーティングで話し合い、常に経過観察の結果を記録し拘束解除に向け再考している。また、定期的に行っているミーティングでもスタッフの身体拘束の知識向上に努めている。	職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや声かけ、付き添いを行っている。身体拘束のマニュアルを整備し、身体拘束の内部研修を行い、資料や報告書を整備している。玄関等への出入りについては、鍵をかけないことを基本としているが、職員の休憩中などは施錠することがある。	職員が少ない時の鍵の施錠については、更なる検討や取り組みに期待する。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員ミーティングでは、殆ど毎回虐待について研修し、不適切なケアが無いかも意見を出し合って確認している。また、各職員は、定期的に実施している自己評価でも、不適切なケアについて気付いたことは記入しもらい、見過ごされないように虐待防止を徹底している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については新型コロナウイルスの影響により外部研修は参加出来ていないが、定期的に行っているミーティングの中で全職員に研修を行い、グループホームにおける権利擁護について分かりやすく事例を挙げ、理解を深めている。	権利擁護に関する制度については、家族会や必要時に家族に説明している。家族に配布する資料も整備している。権利擁護について学ぶ内部研修を実施し、資料を整備している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明は、利用者と家族に丁寧に行っており、家族と十分に話し合い理解納得してもらっている。また、家族会でも重ねて説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の思いを大切に受け止め、利用者の状況報告や物品の持参をお願いする際にご意見や要望はないかを必ず聞くようにしている。要望があれば職員に伝達し、要望に応えられるように実践している。	利用者は日常的に自分の思いや要望を職員に伝えている。「靴べらを設置してほしい」「難しい計算問題がしたい」という要望等にも対応している。家族には利用者の写真を送付したり、ラインで利用者の状況を伝えている。「運動してほしい」という家族からの要望があり、歩行訓練は積極的に取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場と兼務しており現場の状況を把握している。職員の意見に耳を傾けるように努めている。意見や提案も取り入れ、業務の質の向上に努めている。	自己評価は、職員全員の意見を聴取して作成している。また、ミーティングや朝礼、夕の申し送りでも出た意見を取り入れ、業務の時間配分や内容の見直す等、利用者のケアに取り入れている。代表や管理者は個別で職員の意見を聴き、話しやすい環境づくりに努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員は毎年健康診断を受け、健康を第一に考え体調不良時でも直ぐに交代できるようにしている。また、キャリアパス要件書を整備し、処遇改善加算Ⅰを取得、努力する人が報われる職場環境を目指している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	現職員の中には、60歳以上の方が7人、また国外出身の職員もおり、介護に熱意のある方であれば採用している。話し合いの場でも自由に発言が出来き、研鑽を積みながら能力が発揮出来るようにしている。	職員の採用については、性格や人間性を重視している。学歴や性別、年齢で採用対象から排除していない。定年も希望があれば継続して就労することができる。資格取得の希望がある場合は、研修への参加が可能になるよう勤務を配慮している。休日や勤務時間の希望については、可能な限りかなえるようにして、働きやすい職場づくりを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの理念にも人権尊重を第1に掲げ、毎日管理者、職員一緒に唱和をし、ミーティングでも事例を検討して取り組んでいる。また、外部研修にも出かけ啓発を心掛けている。	人権に関する研修は高齢者だけでなく、幅広い内容で研修を行っている。内部研修を全職員受けている。研修の資料や報告書は整備している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングでは全員が参加し意見交換している。外部研修の案内も声をかけし、職員自らが参加し、介護福祉士試験にも挑戦している。専門誌も購入し、いつでも目を通せる様にしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会員となっている福岡県グループホーム協議会からの案内は、職員にも声をかけている。役場主催の福祉ネットワークにも参加し、同業者との交流も行い、介護サービスの質の向上を図っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	たとえ家族と本人との意見が異なっても本人の話しに一番に傾聴し、本人が話しやすい環境を作り、どの職員とでも安心して話せるように心掛けている。例えば本人と職員とが一对一で話せる入浴時などに良く悩みを聞いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時から家族の悩みなどの相談に応じ、入居の際の留意点や入居後の対応など家族とこまめに話し合っている。それぞれの家族の個別の悩みや要望に真摯に向き合うことで家族との信頼関係を築いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当初はデイサービスを利用されていた利用者が、安心してグループホームに馴染めるようにデイサービスの馴染みの利用者や職員に会う機会を作ったりして少しでも不安が無く過ごせるような工夫を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は今現在の利用者の体調を把握し、家事など出来る事は一緒に取り組んでいる。時には利用者からいたわりの言葉をかけていただくこともある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況は、こまめに電話やメールでも報告している。本人の好物を持参して貰ったり、曾孫さんの顔が見たいとの要望にも家族に連絡し、会いに行かれたりしながら家族との絆がいつまでも築かれるように連携している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響によりご家族との外出や面会ができない状況が続いており、そんな中でも安心して過ごしていただけるようにリモートでの面会など行い支援に努めている。	職員は利用者や家族から馴染みの場所や人についての情報を得ている。コロナ禍で面会ができないため、手紙の返事を書くことを支援している。電話は、難聴の人には電話機をスピーカーにして話し声を聞こえやすくするなど配慮している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に歌を唄ったり、玄関先でお茶タイムしたり、車椅子の方を他利用者が押して散歩に行ったり、みんなの洗濯物を畳んで貰ったりしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も入院先へ顔を出し、家族に電話して状況報告したりアドバイスしたりと支援を続けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価		
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】						
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	積極的に声かけして、言葉や思いを聞き取る様にし、必ず本人の希望を第一に聞いて入居中の暮らしが居心地良い生活となるように心掛けています。また、意思疎通が困難な方は、注意深く観察し、食事介助も表情や咀嚼・嚥下状態を見ながら少しでも本人の意向をくみ取るように努めている。	職員は日々の関わりの中で利用者の意向の把握に努めており、表情や行動等から真意を推し量っている。また、意思疎通が困難な利用者については、家族から情報を得るようにしている。利用者から「計算問題や塗り絵がしたい」等の要望にも応え、完成した作品をホール内に展示している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から思い出の写真をもってきてもらい、一緒に拝見しながら本人の人生観や話題づくりを心掛けている。また、入浴後は使い慣れた整髪料や乳液で身だしなみにも満足いただけるよう努めている。			
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、月1回のミーティングで本人の希望、家族からの希望、職員の意見も聞き入れ、本人の持てる能力も見極めながら、出来ることは積極的に一緒に行うなどしている。			
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りを踏まえ、月1回のミーティングでは、本人、家族、職員、医師の意見も取り入れ、関係者全員で介護計画を作成と把握に努め、状態の変化にはこまめに家族へ報告、説明をしている。	本人や家族の意向を確認し、ケアマネジャーを中心に職員と情報共有を図りながらケアプランを作成している。毎日の実施状況を一覧表で確認しながら、6ヶ月に1回、また、必要に応じてケアプランの内容を見直している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ホーム日誌、生活パターン表、介護記録で日々の状況を把握し、その人に沿ったケアを目指している。			
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2階にはデイサービスがあり、声かけして一緒にレクや催し物を楽しんでもらったり、医療機関への受診は、受診票で詳しい情報の提供や、依頼があれば家族に代わって受診の付き添いも行っている。常に報告・連絡・相談を心掛けている。			

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容を活用したり、行きつけの美容院へ行かれたり、近所へ一緒に買い物に行ったりとその日の気分などを見ながら豊かに過ごせることを心掛けている。また、地域からの行事参加呼びかけにも、1人ひとりの状況に応じて参加し、楽しんでいただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に利用者や家族の馴染みのかかりつけ医を勧めている。変更を希望される場合は利用者本人が一番合った医療機関を紹介している。また、訪問診療を希望される場合は前もって情報の提供を行ったり、必要に応じて受診に家族と同行したり、代行したりしている。特に情報提供は現在の状況をしっかり伝えるようにしている。	かかりつけ医を継続することを基本としている。緊急時以外の受診は家族が対応していたが、コロナ禍のため、現在は訪問診療や住診を受けている。ただし、皮膚科などの受診は家族と相談しながら、通院介助の方法など決めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも見逃さないように看護師へ伝え、日々の体調管理を行うと共に、主治医への情報提供により連携しながら利用者の健康維持に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必ず管理者が付き添い情報提供し、安心して治療が受けられるようにしている。また、入院中も何度も出向き、本人と医療機関と連携を密に取っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には必ず説明し、また家族会でも再度説明している。利用者の状態の変化は、主治医、看護師、職員、管理者の全員で意見を出し、家族の協力の下、今後の方針を共有している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を策定しており、家族会や利用開始時に説明している。本人や家族等の意向を大切にしながら、職員全員で情報を共有し、支援している。また、必要に応じて、訪問看護を導入するなど最期まで安心して過ごせるように体制を整えている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、必ずこのテーマを職員ミーティングで取り上げ緊急時対応表も作成している。リクライニング式の車椅子など寝たきり度が高い方でも優しい移動ができるように工夫している。これからも勉強会などに参加し、安全で安心できる実践力を身につけるように心掛ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内の避難訓練は、年2回消防署員の指導をいただき行っている。運営推進会議でも民生委員や区長及び家族代表にも避難訓練の結果や避難場所の説明を行っている。	非常災害対策計画を作成しており、年に2回、昼間、夜間を想定した避難訓練を行い、避難経路の確認や水消火器による消火訓練を実施している。町会議員や区長の参加もあり、地域住民への呼びかけもしている。事業所内に3日分以上の食料や飲料水、寒さをしのげるような備品等を準備しており、玄関に防災マップを掲示している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重を基本理念とし、毎朝唱和して介護業務に臨んでいる。利用者の声にも傾聴し、誇りやプライバシーを大切にし羞恥心などを大切にする介護に努めている。	一つひとつ丁寧に声を掛けながら介助しており、排泄の場面では大きな声で話さず、失敗していてもさりげなくトイレまで誘導し、周囲に気付かれないよう片づけを行っている。病気や薬の事も他利用者の前では話さず、記録については、イニシャルを使用するなどプライバシーに配慮した取り組みがなされている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを十分に受け入れることが出来るように居室で一对一で話しをしたり、散歩中に思いを聞いたり、夜勤帯に夜じっくりと傾聴することを心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事に、ゆっくり食事したい方は1時間かけて食べられたり、テレビを見たり歌を唄ったり、1日のんびり過ごしたりしています。また、家族と外出、外泊を楽しまれたり、その人の希望に沿うように関係者と連携を図り、支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族から好みの服を持ってきてもらったり、入浴後は美容液を塗ったり、マッサージをしたり、訪問理美容も取り入れ顔そりも好評であり、外出時には本人が好きな服を着たり、おしゃれもしていただいている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を活かし、ふきの皮むき、切り干し大根作り、お団子作り、片付けやお茶入れ、食卓拭き、おぼん拭き、またお茶碗洗いなど、一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。	職員は利用者と一緒に準備や食事、片付けを行っている。管理栄養士が献立を立て、栄養面に配慮した食事を提供している。西瓜や柿、イチジクや葡萄などを提供し季節を感じてもらっている。イベント時には、ケーキやぜんざい等を作っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医による健康診断結果も踏まえ、毎日の生活パターン表、水分量表などで状態を把握し、状況に応じ家族とも相談の上、栄養補助食品など利用し、体調管理に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問歯科による指導があり、ご自分で歯をみがく方もあるが、毎食後は全員口腔ケア、義歯ケアも行い、口腔内の清潔を心掛けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っている。入所前紙パンツだった方も日中は普通の布パンツするなどしてうまくいっている。歩くことが困難な方もポータブルトイレで排泄の習慣を行いオムツの使用を減らしている。	生活パターンシートを用い、一人ひとりにあったトイレ誘導やオムツ交換のタイミングを把握している。また、ミーティングで話し合いながら、紙パンツから布パンツへ変更するなど、自立に向けた支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で一人ひとりの排便状況を確認し、水分補給を増やしたり、食物繊維の多いバナナを差し上げたり、また、トイレのたびに腹部マッサージをしたり、便秘薬も飲まれているが、出来るだけ自然排便が出来るように心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は毎日行い、仲の良い人と同じ日にしたり、好みの洗顔石鹸・化粧水・乳液などを持ってきてもらい、ご自分で着る服も選んでもらっている。また、むくみを取るために足浴や手浴をしたり、入浴中に職員とのコミュニケーションもとれて悩みなどの本音を聞きだせることもある。	毎日入浴できる体制を整えている。音楽をかけたり、職員との話を楽しんでもらったりと入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調、夜間の睡眠状況をみながら、30分間の昼寝をして頂いたり、外気浴、日光浴、布団干、定期的なりネン交換も心掛けている。また、居室の温度や明るさにも気を配っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はいつでも確認できる様にしている。副作用や量についても申し送りを行い、内服薬は二人でチェックしている。また、確実に服薬いただくように飲み込み確認のサインと空袋の確認をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る家事手伝いや、レクも本人希望の学習ドリルであったり、塗り絵であったり、手紙を書いたり、本を読んだりと、一人ひとりに合わせたしている。また、玄関先でお茶会をしたりと楽しんでいただいている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は新型コロナウイルスの影響で外出は行えていないが、以前はお花見やバラ見物など季節を感じ取れるように努めていた。現在でも中庭に季節の植物を植えて、一緒に見に行ったり収穫していただくなど工夫している。	散歩は毎日行っており、庭でお茶会を開くなど気分転換を図っている。2カ月に1回、外出の機会を設けて、久山の案山子を見に行ったり、バラや秋桜、さくらなどの花見に出かけたりと定期的に外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当初、利用者同士で、お金の貸し借りがあり、トラブルが絶えなかったので朝茶代表が預り、必要なときにいつでも使えるということで安心と納得をいただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により年賀状や行事の写真を同封したお手紙を書かれたりされて家族も大変喜ばれ、離れている家族からの返信が来たりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には温度計を置き、常に気をつけている。リビングでは季節の花、利用者の写真や作品を飾り、明るい環境を心掛けている。また、中庭にも花壇や畑があり、楽しんでいただいている。	リビングから中庭が見え、菜園の様子などを見ることができる。共用部には、利用者手作りの作品や季節を感じてもらえるような花を飾っている。採光も良く、明るい雰囲気であり、居心地良く楽しんでもらえるような工夫が見られる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの隅や窓辺などを活用し、1人用のテーブル、椅子を置き、暫く座って頂いたり、玄関先で気が合う利用者でお茶をしたり、心地よく落ち着く工夫を心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、今まで使っていたテーブルや布団、枕、テレビなどを持ってきていただき、一人居室で音楽を楽しまれたりもしている。	居室には馴染みの家具を持ち込んだり、写真を飾ったりと居心地よく過ごせる環境を整えている。また、居室の入口にはネームプレート希望に応じて設置し、自室だとすぐに分かるよう工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下等手すりをつけ安全を心がけている。特に夜間帯は人感センサーを設置し、移動時の安全に気を配っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない